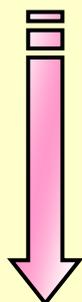


課題と改善の基本方針は、何か。

平成20年1月の中央教育課程審議会答申では、理科の課題について次のように指摘している。

- 理科の学習に対する意欲は他の教科と比較して高いといえるが、それが大切だという意識が高くないという両者の乖離が課題である。また、国際的に見ると、我が国の子どもたちの理科の学習に対する意欲は低い状況が見られる。
- 国民の科学に対する関心が低いことを踏まえ、理科教育については生涯にわたって、科学に関心を持ち続けられるようにするという観点から、見直す必要があるのではないかと指摘がある。
- 子どもの体験の状況については、過去に比べて、理科の学習の基盤となる自然体験、生活体験が乏しくなっている状況が見られる。
- **教育課程実施状況調査**において、過去同一問題の比較から全体としては上昇傾向が見られたものの、てこのつり合いや衝突、人体の構造や働き、物質の状態変化や化学変化における質量の保存、植物の生活と種類などの内容の基礎的な知識・理解が十分ではない状況がある。
- **教育課程実施状況調査**において、地層のでき方を推論する問題、意味付けや関係付けを伴う説明活動に関する問題、グラフを読み取り考察する問題、実験の途中経過を考察する問題などにおいて、科学的な思考力・表現力が十分ではない状況がある。また、**PISA 調査**においては、「科学的証拠を用いること」に比べ、「科学的な疑問を認識すること」や「現象を科学的に説明すること」に課題が見られる。



「教育課程実施状況調査」(国立教育政策研究所)



「国際学力調査 (PISA2003 及び 2006, TIMSS2003)」(文部科学省)



以上の課題を踏まえた「改善の基本方針」は、5点挙げられている。

改善の基本方針